

県立結城第一高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】（令和6年度）

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。
- 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

校訓「自彊不息」（じきょうやすまず：自ら努めて励み、事に当たっては全力を尽くして怠らないこと）を精神的支柱とし、知育・徳育・体育の健全な成長を図り、社会性や公共心を備えた地域社会に貢献できる有為な人材の育成に努める。

- 教育内容や指導方法等の工夫・改善により基礎・基本の確実な定着を図るとともに、自ら学び自ら考え実践する力を育成する学校
- 基本的生活習慣の確立を図るとともに、道徳教育・特別活動等を通して、規範意識や豊かな心を育成する学校
- 特別活動や体験学習等の活性化により、健やかな心身を育成する学校
- 生徒一人一人の望ましい勤労観・職業観の醸成を図り、希望進路の実現を目指す学校
- 「開かれた学校」を目指し、保護者・地域社会等と連携・協力しながら、教育活動の改善・充実を図る学校
- 帰国・外国人生徒への教育の充実を図るとともに、日本文化や異文化への理解を深め、国際感覚豊かな人材を育成する学校

各学校で定める目標と育成する資質・能力

- 3つのマナー（時間・場所・場面）の定着を図るとともに、豊かな心や健やかな体を育てる。
- 他者との協働・協調の精神を涵養し、高校生として必要なコミュニケーション能力を育成する。
- 新しい自分を発見することで自己肯定感を高め、自ら学び向上する態度を身に付ける。
- 明確な進路実現のために、勤労観・職業観を高めながら、進路マネジメントを育成する。
- 地域の題材から課題を見出し、他者とともに解決に向け考える力を養う。

- （知識・技能）
自分を客観的に見る力、コミュニケーション能力、他者を尊重する態度、職業等についての基礎知識、他者とともに課題を発見し解決する力
- （思考力・判断力・表現力）
組織や社会における規範や法を理解し、積極的に社会参加する態度を養う。自己理解を深化させ、自発的に進路選択を行うことができる。自分の考えを的確に相手に伝えることができる。
- （学びに向かう力、人間性等）
他者と協働しながら多様な課題を整理するとともに自己肯定感を養い、自らの進路を主体に進めるなど、学びに向かう態度を養う。

総合的な探究の時間の学習評価

- プログラムごとに生徒が計画書、振り返りシートを記入し、その取組状況評価する。
- 作成した資料・ポスターおよび発表のパフォーマンスを評価する。
- (1)(2)について、探究活動委員会や定例の学年会において、学習活動の評価観点や指導上の課題を共有する。

※ 生徒による授業評価（7月 12月）と保護者によるアンケート調査（1月）を行い、授業改善の及び指導力向上を図る。

生徒の実態

基本的生活習慣の確立と、コミュニケーション能力の向上を目標に、日々努力を続けている。多くの国・から生徒が集まっているが、人種や国籍による差別は無く生活をしている。高校生になってから、自分の適性を見出し、自分に合った場面で活躍できるようになった生徒が多い。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

- 生徒一人一人の適性にあった教材・指導の工夫をする。
- 外国人生徒や母語が日本語でない生徒への、生活・学習両面での配慮を行う。
- 家庭および中学校との連携を密にし、学校全体で生徒支援等を充実させる。

目指す生徒の姿

- 社会生活での規範を大切にし、豊かな心・健やかな体を持つ生徒
- 自らすすんで学びに向かう生徒
- 協働的に学習し、高い目標を持つ生徒
- 課題を一つひとつ解決し、自己肯定感を高く持てる生徒
- 進路を主体的に決定し、自分の未来を積極的に切り拓く生徒
- 地域の課題を発見し、課題解決に向けて行動できる生徒

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力）

【自分を知る・他社を知る・将来を考えるプロジェクト】

- （知識・技能）自己理解・表現の方法。他者理解。職業・進路研究
- （思考力・判断力・表現力）
自分の志向・適性・特性を発見・理解する。自分の考えを適切な形で表現する。他者の立場・意見を理解する。
- （学びに向かう力、人間性等）自分及び友人の長所・短所を理解する。進路を主体的に考える。職業と学問の多様性を学び、生涯をとらした学びの必要性を実感する。

【歴史を学ぶ・伝統を学ぶ・地域を考えるプロジェクト】

- （知識・技能） 地域の歴史・伝統・文化・自然。発表の技法。プレゼンテーション・ツールの利用
- （思考力・判断力・表現力） 地域の現状理解と未来への考察。プレゼンテーションの内容・方法を工夫する。
- （学びに向かう力、人間性等） 地域や社会の課題に目を向け、自身のアイデアを活かし解決策を話し合っ学校外に向けて提案・実践しようとする意識を高める。

【日本や外国の文化、風土等を考えるプロジェクト】

- （知識・技能） 日本や外国の文化、風土等を研究
- （思考力・判断力・表現力） 調べたことなどから課題を発見し、多言語で発信する。
- （学びに向かう力、人間性等）
グループ学習や協働作業、個人研究などをとおして、自己の在り方生き方について考える。感謝の気持ちを素直に表現する。

学習活動、指導方法等

3年間を見通した進路実現プログラムを実践し、1年生はコミュニケーション能力の向上、2年生は自己発展、3年生は自己実現を目標とし、各学年の目標達成のために事業を行う。

「コミュニケーション能力の向上」「自己理解の深化」「進路意識と自己表現力の向上」のプログラムを実践する。

《1年》「なかまづくり活動」を通して、生徒の相互理解と仲間づくりを促進させる（5月・7月）とともに、他者と協働しながら目標を達成する喜びを体験する。つむぎ教室（12月）を通して地域の伝統的な産業を理解する力を養う。

《2年》6月に「なかまづくり活動」を新クラスで実施する。また、日頃の授業において主体的・対話的な深い学びの実践を積極的に取り入れ、生徒の自発的学習能力を育成する。「進路意識と自己表現力の向上」では、進路講話・進路ガイダンス・進路見学会という3本の柱と、全員が参加する10月のインターンシップにより勤労意識の醸成を図る。歴史探究を通して地域の歴史や文化について探究する力を養う。

《3年》1学期に一般教養・常識を身に付ける研究と演習を行う。7月には外部講師を招聘して模擬面接を行い、自分を表現する力を養成することにより進路実現を図る。進路決定後は自分を客観視する態度を身に付けながら、進路に向けた思考力・判断力・表現力を養う。発展的な外国語活動や歴史探究活動を通して地域等の課題を発見し解決する力を養う（特別活動等の地域探訪においても同様の取組を実践する）。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

探究活動委員会（10名）…新学習指導要領改定に向けた動向を注視しつつ、適宜内容や評価等の改善に取り組みながら、主に次の事業を行う。

（委員：教頭・主幹教諭・教務主任・進路指導部長・各学年主任・英語科主任・つむぎ部顧問）

- なかまづくり活動（1年生5月・7月 2年生5月）…講師派遣依頼 各回2～3名
- インターンシップ（2年生10月）…近隣の事業所（令和5年度は37事業所）の協力により実施
- 模擬面接（3年生7月）…進路支援企業に講師派遣依頼 4～5名
- つむぎ教室（1年生1月）…茨城県本場結城紬織物協同組合
- 探究活動（各学年・生徒会等）…結城市商工観光課、結城市まちづくり協働課、結城市防災安全課